

## 「自分の命を守るため」

板野西小学校 六年 眞鍋 佳登

ぼくは、三年生の時に学校で交通安全教室があり、自転車に乗っている時の踏切の渡り方や、一時停止の時に確認する場所などを学びました。そして実際に乗る練習などをします。ぼくが自転車に乗れるようになってからは色々な所に楽に行ける反面、とても危ないと思ったこともたくさんありました。

一つ目は、坂道を下りている時に、出てきた車とぶつかりそうになったことです。いつもは、車が出てくることの少ない道だから、止まらなくても大丈夫だろうと思っていると、突然車が出てきてブレーキをかけてなんとかぶつからずにすんだけれど、もしあの時に車がもう少しおそく出てきたらと考えると、とても怖くなります。交通安全教室で学んだ車が出てくる場所は、必ず止まって確認することの大切さを改めてよく知ることができました。

二つ目は、せまい歩道での出来事です。ぼくが歩道を自転車で走っていると、前から自転車が来たので端の方に止まると、前から来た自転車の方は、ゆっくりとスピードを落として通ってくれました。自分の事ばかりではなく相手の事を考えることを知ることの大切さを知ることが出来ました。

どんなことでもそうですが、安全に使えば楽で便利なもの、しかし一歩間違えるとどんなものでも凶器となります。だからこそ使い方を考えて、自転車にも乗りたいと思います。交通事故でも、自転車の事故は少なくはないという事が分かります。だからこそ自転車で乗る前にはしっかりとヘルメットを着用して、標識などはしっかりと確認して交通ルールを守ることが大切なのではないかとぼくは考えます。

ぼくは、日頃から母に「かもしれない」で行動しなさいと言われていました。車とぶつかりそうになったのも、その時に、あそこからもしかしたら車が出てくるかもしれないから止まろうという事が頭に入れていなかったのではないだろうかと思えます。

このような事を考えながら自転車に乗れば、事故を少なく出来るのではないかと、逆の事を言えばこのことを守らなければ事故が起きます。事故が起きると良いことなんて一つも無いです。事故を起せば自分も相手も悲しくなるだけです。そんな事が無いように、そしてつらい思いをする人がひとりでも少なくなれば良いと思います。

これからぼく達は中学生になります。中学生になれば自転車通学になったり、友達と色々な所に行くようになります。そうすれば事故に合う確率も上がると思えます。さらに、高校生になればヘルメットをかぶらない人も増えると思います。だからこそもうヘルメットは着けなくてもいいやなどは思わずに、ヘルメットを着けたり、交通ルールをしっかり守ったうえで楽しく自転車で乗ることが大切なのではないかとぼくは思います。

